

令和5年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 国語科

改善の重点

- ① 単元で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、資質・能力を育成するための言語活動を位置付けた単元を構想すること。その際、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を進める観点から、1人1台端末の活用が効果的な場面について検討し、積極的に取り入れること。
- ② 適切な評価規準を設定し、資質・能力の定着を確認する学習評価とその方法を構想すること。また、「努力を要する状況」の生徒に対する手立てを適切に設定すること。

1 設定理由

中学校学習指導要領第2章第1節国語の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。」とある。国語科においては、単元を見通して、生徒が言葉に着目し言葉に対して自覚的になるよう学習指導の工夫を図ることや言語活動を充実させることが不可欠である。

そこで、育成すべき資質・能力を確実に身に付けさせるための改善の重点を2点設定した。①として、「単元で育成を目指す資質・能力を明確にする」「目標を実現するために適した言語活動を位置付ける」ことを挙げた。なお、言語活動は、生徒の目的意識や必要感をかき立てるものであること、単元全体で課題解決を目指して位置付けることが重要である。さらに、主体的・対話的で深い学びを実現する観点から、その効果が期待される「1人1台端末の活用について検討し、積極的に取り入れる」ことについても求めている。

②では、「適切な評価規準の設定」を挙げた。評価を指導の充実につなげるためには、それぞれの実現状況を把握できるよう、単元を見通して評価場面や評価方法などを適切に位置付けた指導と評価の計画の作成が重要である。その際、指導事項と言語活動から単元の評価規準を適切に設定するとともに、各時間で評価する「おおむね満足できる状況」を生徒の具体的な姿で想定することが重要である。併せて、習熟の程度に応じた指導を充実するため、「努力を要する状況」の生徒に対する手立て（その1つとして1人1台端末を活用することも考えられる）を想定しておくことが、評価の実際における準備として必要であるとした。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める観点から、作成する学習指導案には、単元を通して行う言語活動に加え、各時間の具体的な学習活動（※1人1台端末の活用が効果的な場面を検討し積極的に取り入れること）及び単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか（※具体的な生徒の姿で設定すること）等を整理した単元の指導と評価の計画を記載すること。
- ②適切な支援を行う観点から、「予想される『努力を要する状況』の生徒への手立て」（※1人1台端末の活用を含む）等を記載すること。

(2) 参考とすべき資料

- ①「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（中学校国語編）
(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_kokugo.pdf)
- ②「学習指導案様式(例)」（<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r2-shidouan-rei.html>）